

# 学道一如

発行  
小樽双葉高校  
生徒会通信  
2026年2月27日  
第56号

## 全国高校選抜スキー大会(旭川) 石水ほたるさん優勝



1日目スーパーGS  
吉澤桃華さん 鈴木瑛太くん 石水ほたるさん  
10位 9位 7位



2日目GS  
吉澤桃華さん 石水ほたるさん 山田悠貴くん  
6位 優勝 9位

全国高校選抜スキー大会が旭川で開催され、1・2年生が出場した。1日目のスーパーGSでは女子は石水ほたるさん(1・2)が7位、吉澤桃華さん(1・2)が10位に、男子は鈴木瑛太くん(2・4)が9位に入賞した。2日目のGSでは女子で石水ほたるさんが優勝、吉澤桃華さんが6位に、男子で山田悠貴くんが9位に入賞した。

監督の玉川先生は次のように仰っている。「1日目は気温が高く難しい雪質で上位入賞は難しかった。」

2日目は石水ほたるさんが高校での初タイトルを獲得、吉澤桃華さんも2日連続の入賞となった。男子では山田悠貴くんが2本目に2番タイムで順位を上げ、技術選との二刀流の田村翔太郎

くんもアルペンの全国大会デビューを果たした。

3日目のSLは強風のため中止となった。山田悠貴くんのGS2本目は緩斜面でも攻めて好タイムに繋がった。鈴木瑛太くんは上部で内倒してスピードが落ちたと振り返っていた。基礎スキーとアルペンの二刀流の田村翔太郎く

### 坂東元の 鉄道日記 関西の旅(3)



12月29日。この日は唯一伯母に付き合っただけだった。目当ては、岡山方面を走る国鉄型車両であった。まずは阪和線普通で天王寺駅へ、天王寺駅12番のりばから大阪環状線外回りに乗車。大阪駅からは神戸線と東海道本線の新快速に乗る予定であったが、少し時間があつたため、持ってきたカメラで撮り鉄をした。大阪環状線の留置線を見ると、323系が二編成見えた。いつもは気づいていなかったが、やはり同型車両が複数停車している姿は、どこか美しいと感じる。すると迎える3番のりばに2017000系特急「スーパーはくと」が入線(上写真)。こ

れを激写した。はくとが発車すると、いよいよ新快速が入線。新快速は、国鉄時代から運行され、アーバンネットワークを支えてきた。列車の最高速度は、130kmに達し、京都から西明石の区間は、複々線外側線を猛スピードで駆け抜ける。途中、普通電車や特急電車も追い越すという面白い光景が広がる。停車駅も少なく新幹線や特急と競走した場合でも引けを取らない速達性を誇る爆速快速である。並行する区間がある阪神、阪急、京阪と比較すると速達性では、圧倒する。しかし運賃は私鉄の方が安い。今回充当された車両は、223系2000番台であった(上写真)。私がJR車両で最も好きな車両である。最近では、更新車が見られるようになり、未更新車がなくなるのも時間の問題かもしれない。列車は、神戸駅に着いた。ここで東海道本線が終わり、山陽本線へと切り替わる。この先の明石方面では、複々線の構造が変わり、また面白い光景が見られる。この新快速などの優等列車は、高所を走るため、明石大橋などを綺麗に見

【記録】  
▼スーパーGS・男子  
15位 山田悠貴(1-4)  
68位 井上創太(1-3)  
71位 川久保皇佑(1-3)  
82位 中山 翔(1-3)  
▼GS・男子  
27位 鈴木瑛太(2-4)  
65位 井上創太(1-3)  
75位 中山 翔(1-3)  
76位 田村翔太郎(2-4)

んは「アルペンの練習成果が出ている。バーンが荒れていても対応できるようになった」と語っている。  
今後は全日本選手権、FISの大会へと参戦が続く。

ることができ。更に途中、山陽電車と並行する姿も見ることが出来る。西明石を出ると、複々線から伏線へと変化。流石に田舎に来たといった感じだ。だが、新快速の高速運転は健在である。姫路に近づくと、左から新幹線が接近してくる。姫路路に到着した。この列車の終点は、姫路であるため、ここで乗り換えである。列車は、8番のりばに入線した。

右端のホームには播但線電化区間で運用されている103系電車二両編成が停車していた。103系は国鉄型電車でも多く製造された鉄道車両だ。かつては本州全土で活躍したこの車両も今となっては絶滅危惧車両の一つだ。前回、大阪に訪れた時は播但線の電化区間である寺前まで、この103系を目当てに行ったことがある。次に来た時は、カメラに収めたいと思う。

播但線の手前には、姫新線の車両が停車していた。122系か127系かは覚えていないが、この車両は223系系列と同じような外見の気動車である。私は姫新線には、乗ったことがない。だが、いつかは乗ってみたい路線の一つだ。